

エコアクション21

2023年度 環境経営レポート

(活動期間:2023年6月～2024年5月)



株式会社 竹中

作成：2024年9月30日

目 次

1. 経営基本方針
2. 事業概要
3. E A 2 1 実施体制
4. 役割・責任・権限
5. 環境経営目標
6. 環境経営計画
7. 環境経営の結果と評価
8. 環境関連法規等の遵守状況、違反・訴訟の有無
9. 代表者による全体評価と見直し

1. 経営基本方針

基本理念

株式会社竹中は、人間尊重と全員参加の経営を基本とし、事業を通じ社会に貢献することを信条として、優れた技術力の提供により、お客様の信頼と満足を得る企業となることを、基本理念としています。

基本方針

当社は、自動車及び産業用車両の部品そして発電機、船舶用の部品又ロボットや鉄道車両部品の製造を行っていることを踏まえ、以下の項目を基に事業活動を推進することに努めます。

1、顧客満足の重視

自社の持てる力と改善工夫によって、製品品質に関する要求事項を適合させると共に製品の安全に関する重要性を認識し、お客様の満足が最大になるように、製品・サービスの質の向上について努力し続けます。

2、品質第一

当社は、常に品質を第一と考え、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、品質向上に取り組めます。

3、法令・規制要求事項の遵守

製品に対する法令・規制要求事項を満たすと共に、事業活動から生じる環境側面に関する適用可能な法規制および当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4、社内の改善・活性化

継続的な業務改善プロセスを通じ、社内管理体制、業務の健全化を実施します。また、従業員の教育訓練を充実させ、各自の技術力向上および当社技術力の向上を図ります。

5、環境影響への配慮

企業活動が環境に与える影響を的確に把握し、環境改善目標を設定し、定期的に見直し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

また、省エネ・省資源活動、廃棄物の削減活動などを通じて、環境影響の低減を推進し、汚染の防止および予防を行います。

2024年6月1日

株式会社竹中

代表取締役 竹中 彰一

2. 事業概要

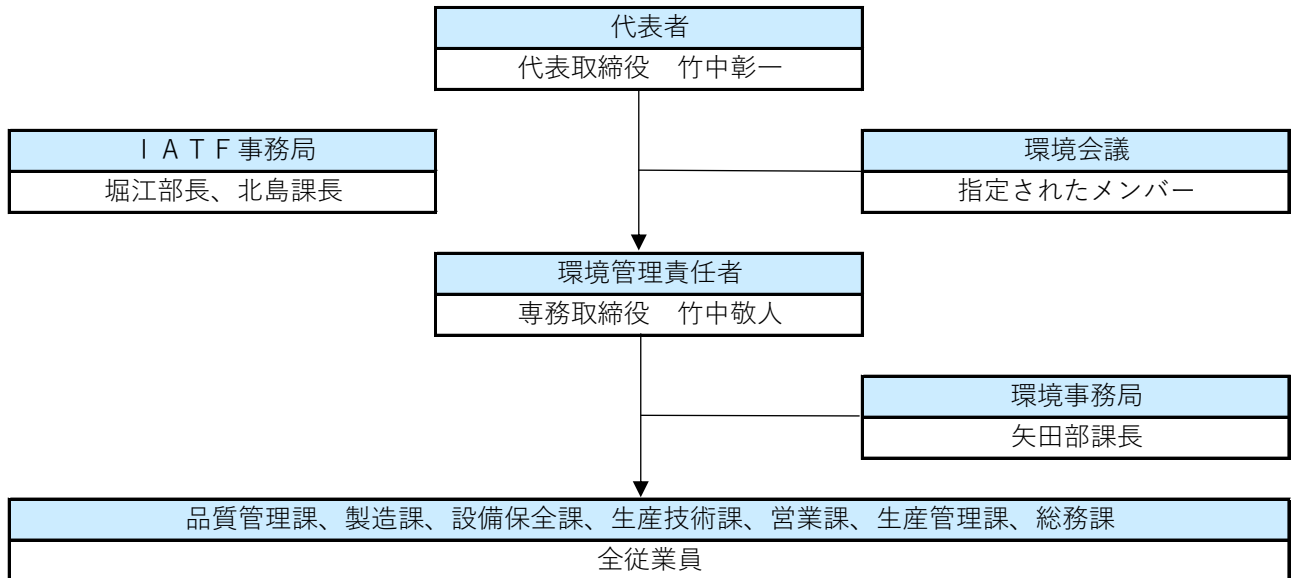
会社概要

社名 : 株式会社 竹中
創業 : 1938年8月
所在地 : 本社・佐野工場 〒327-0816 栃木県佐野市栄町7-2
 鍮塚工場 〒327-0816 栃木県佐野市鍮塚町170-3
 藤岡工場 〒329-0311 栃木県栃木市藤岡町富吉1864-6
代表者 : 代表取締役 竹中彰一
資本金 : 5300万円
従業員数 : 112名
環境管理責任者 : 専務取締役 竹中敬人
連絡先 : 0283-23-2633
FAX : 0283-22-7055
メールアドレス : takenaka-info@takenaka-tac.co.jp
事業内容 : 自動車部品（エンジン・トランスミッション・足回り関連部品）
 ・産業用部品の製造
事業年度 : 6月～翌年5月
認証・登録範囲 : 全組織・全活動
 対象組織：本社・佐野工場、鍮塚工場、藤岡工場
 対象活動：自動車部品・産業用部品の製造業

沿革

1938年 : 東京都大田区に竹中製作所を創立
1970年 : (株)竹中を設立
 : 三菱重工業殿と取引開始
1989年 : 第二工場が竣工
2014年 : 薄肉ステンレス鋳鋼のターボ部品の加工を開始
2015年 : 高級自動車用部品の加工を開始
2016年 : 水素燃料電池車用の薄肉中空ハウジング量産開始
2017年 : 新製品受注により、国内トラック4社への部品供給開始
2018年 : 創立80周年を迎える
2019年 : IATF16949認証取得
2020年 : エコアクション21認証取得
2021年 : 藤岡工場取得
2022年 : いすゞ殿向け アッセンブリー品の受注
2023年 : 藤岡第二工場竣工

3. 実施体制図



4. 役割・責任・権限

	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しの実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表の承認 ・環境目標・環境活動計画書の確認 ・環境活動の取組結果の代表者報告 ・環境活動レポートの確認
環境会議	・環境活動計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価 ・代表者・環境管理責任者が必要と認める事項の審議
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 を推進するための事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 環境経営目標

項目	環境経営目標	課題(何を)		サイト	2021年度の実績を基準(BM)として環境経営目標				
					単位	基準(BM)	目 標		
						2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
省エネルギー	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量		本社・佐野工場	kWh/加工高	4,665,316/137.7 =33,880.3	32,863.9 97%	31,847.5 94%	30,831.1 91%
				鍛冶工場	kWh/加工高	442,049/137.7 =3,210.2	3,113.9 97%	3,017.6 94%	2,921.3 91%
				藤岡工場	kWh/加工高	182,563/137.7 =1,325.8	1,286.0 97%	1,246.3 94%	1,206.5 91%
		軽油使用量		全社	L	16,448.0 97%	15,954.6 97%	15,461.1 94%	14,967.7 91%
		二酸化炭素排出量（合計）		全社	kg-CO2	2,306,000.0 97%	2,236,820.0 97%	2,167,640.0 94%	209,460.0 91%
廃棄物 イクル・リサ	廃棄物の削減とリサイクルの推進	産業廃棄物排出量	廃油排出量	全社	L	120,600.0 97%	116,982.0 97%	113,364.0 94%	109,746.0 91%
			廃プラ排出量	全社	kg	23,800.0 97%	23,086.0 97%	22,372.0 94%	21,658.0 91%
節 動 水 活	水使用量の削減	水使用量		全社	m3	3,117.0 97%	3,023.5 97%	2,930.0 94%	2,836.5 91%
化 質 学 物	化学使用量の削減	溶剤使用量	アミノエタノール、キシレン、トルエン	全社	kg	215.0 97%	208.6 97%	202.1 94%	195.7 91%
環境意識の啓蒙教育		たまり槽あふれに対する対応教育 他		全社		継続実施			
地域貢献活動		団地協会主催 交通安全啓蒙活動協力 他		全社		継続実施			
		団地協会主催 会社周辺の清掃活動への参加		全社		継続実施			

※ 購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.447kg-CO2/kWhです。(2020年度実績)

電気使用量の原単位＝電気使用量(kWh)／加工高(百万円)

※ 加工高とは、(売上高)－(有償時材料費＋市場材料費)－(外注費＋購入部品費)＋(在庫増減)で求められるもので、会社の付加価値を示すものである。

6. 環境経営計画

方針：環境を良くすることで、利益に寄与する事を基本とし、活動する

削減項目	2023年度に行った施策	主担当部門	継続性
電気使用量	休日の電源の遮断等による電気料の削減	製造部	継続
	非稼働時間の機械のOFF徹底による電気料の削減	製造部	継続
	生産性向上による使用電力の削減	製造部	継続
	コンプレッサーの夜間、休日使用台数の適正化	製造部	継続
	空調の適正温度管理	全部門	継続
	照明のLED化	製造部	新規
	事務所の不要照明の消灯	全部門	継続
軽油使用量	バッテリーフォークへの切り替え促進	生産管理部	新規
灯油使用量	電気ストーブへの切り替え促進	製造部	新規
廃油排出量	廃油再利用における低減活動	製造部	継続
廃プラ排出量 (産業廃棄物量の低減)	ビニール再利用、廃止、集約の促進	生産管理部	継続
	段ボール再利用、廃止、集約の促進	生産管理部	継続
水使用量	機械への切削水の適正入れ替え	製造部	継続
アミノエタノール	代替品や代替工程の実現性の検討	生産技術部	継続
キシレン	代替品や代替工程の実現性の検討	生産技術部	継続
トルエン	代替品や代替工程の実現性の検討	生産技術部	継続
環境意識の啓蒙活動	たまり槽のあふれに対する対応教育	製造部	継続
	ドラム缶転倒に対する油脂漏洩対応教育	製造部	継続
	同機能かつ最安値商品であれば再利用製品の推奨購入	製造部	継続
地域貢献活動	団地協会主催 交通安全啓蒙活動協力	総務課	継続
	エコキャップ収集による子供ワクチン支援	総務課	継続
	団地協会主催 会社周辺の清掃活動への参加	総務課	継続

7. 環境経営の結果と評価、次年度(2024年度)の取り組み

		サイト	単位	2021年度	2023年6月～2024年5月（54期）					取組み結果の評価	2024年度に行う施策
				基準年度	目標		実績				
					数値	(%)	数値	(%)	達成状況		
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	本社・佐野工場	kWh/ 加工高	33,880.3	31,847.5		5,352,505/166.1=3 2,440.6	101.9%	△	【未達】 藤岡工場は2022年度から本格稼働。過去の実績がなかったため目標数値が厳しくなりすぎてしまった。 【新規】 照明のLED化 【継続】 休日の電源の遮断等による電気料の削減 非稼働時間の機械のOFF徹底による電気料の削減 生産性向上による使用電力の削減 コンプレッサーの夜間、休日使用台数の適正化 空調の適正温度管理 事務所の不要照明の消灯	
		鍛塚工場		3,210.2	3,017.6		440,853/166.1=2,6 83.3	88.9%	○		
		藤岡工場		1,325.8	1,246.3		714,397/166.1=4,4 19.9	354.6%	×		
	軽油使用量	全社	L	16,448.0	15,461.1		15,180.0	98.2%	○	【達成】 バッテリー車の増加に寄って達成となった。 【新規】 バッテリーフォークへの切り替え促進	
	灯油使用量	全社	L	22,607.0	21,250.6		24,543.0	115.5%	×	【未達】 従業員の増加により使用する灯油ストーブの台数が増加したため未達となった。 【新規】 電気ストーブへの切り替えを促進	
	二酸化炭素排出量	全社	kg- CO2	2,306,000.0	2,167,840.0		3,013,471.0	139.0%	×	【未達】 上記活動の結果、未達となった。 【継続】 上記活動によるCO2削減の推進	
廃棄物の削減とリサイクルの推進	廃油廃棄物排出量	全社	L	120,600.0	113,364.0		199,600.0	176.1%	×	【未達】 工場の稼働率工場に伴い、廃油も増加したため未達となった。 【継続】 廃油再利用による低減活動	
	廃プラ廃棄物排出量	全社	kg	23,800.0	22,372.0		34,540.0	154.4%	×	【未達】 工場の稼働率工場に伴い、廃棄物も増加したため未達となった。 【継続】 ビニール再利用、廃止、集約の促進 段ボール再利用、廃止、集約の促進	
節水活動	水使用量	全社	m3	3,117.0	2,930.0		5,214.0	178.0%	×	【未達】 工場の稼働率工場に伴い、水使用量も増加したため未達となった。 【継続】 機械への切削水の適正入れ替え	
化学物質	溶剤使用量(アミノエタノール、キシレン、トルエン)	全社	kg	215.0	202.1		59.2	29.3%	○	【達成】 溶剤を使用しないラインが増加したため達成となった。 【継続】 代替品や代替工程の実現性の検討	
環境意識の啓蒙教育		全社		継続実施							
地域貢献活動		全社		継続実施							

・目標の達成 ○: 目標と比較し100%未満、△: 目標と比較し100～110%、×: 目標と比較し111%以上

・「自ら生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善項目」については、不良品を出さない、無駄を省く、生産効率を高めるなど、IATF16949の取り組みにより管理している。

・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.447kg-CO2/kWhです。(2020年度実績)

・電気使用量の原単位＝電気使用量(kWh)／加工高(百万円) 加工高とは、(売上高)－(有償時材料費＋市場材料費)－(外注費＋購入部品費)＋(在庫増減)で求められるもので、会社の付加価値を示すものである。

8. 環境関連法規等の遵守状況、違反・訴訟の有無

1、適用となる主な環境関連法規

法規等の名称	要求事項	順守状況
騒音規制法	◆規制基準の遵守義務 ◆特定施設の設置・使用・変更の届出等	適合
振動規制法	◆規制基準の遵守義務 ◆特定施設の設置・使用・変更の届出等	適合
浄化槽法	◆浄化槽設置の届出 ◆設置後等の水質検査 ◆浄化槽の保守点検及び清掃 ◆定期検査	適合
フロン排出抑制法	◆事業者の責務：特定製品の廃棄の場合のフロン類の適切な措置 ◆廃棄等する場合の措置：フロンの回収、フロンの破壊 ◆特定解体工事元請業者の確認及び説明 ◆エアコン機器及びフロン類の適切な管理	適合
消防法	◆指定数量未満の危険物を貯蔵し、又は取扱う場合、各市町村条例で貯蔵及び取扱い上の基準が定められている（地下貯蔵タンクの流出防止対策）	適合
廃棄物処理法	◆事業活動に伴い生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理すること。 ◆一般廃棄物の委託の基準 ◆事業者の産業廃棄物の処理責任 ◆事業者の特別管理産業廃棄物処理の処理 ◆産業廃棄物管理票制度 ◆投棄の禁止 ◆指定有害廃棄物の処理の禁止	適合

2、違反、訴訟

- (1) 当社による環境関連法規の遵守評価では違反事項はありません。
- (2) 関係当局からの指摘及び利害関係者からの訴訟は過去ありません。

9. 代表者による全体評価と見直し

活動期間	2023年6月～2024年5月
作成者	環境管理責任者：専務取締役 竹中 敬人

見直しに必要な情報	項目		確認	評価・コメント
	1	環境への負荷の自己チェックの結果	■	現状を把握した。
	2	環境への取組の自己チェックの結果	■	現状を把握した。
	3	環境関連法規などの遵守状況の結果	■	現状を把握した。
	4	外部からの苦情などの受付状況及び対応結果	■	外部からの苦情はなし。引き続き外部（特に近隣住民）との良好な関係を維持すること。
	5	教育訓練の状況	■	現状を把握した。
	6	環境上の緊急事態の対応に関する試行及び訓練の結果	■	現状を把握した。
	7	環境経営目標、環境経営計画	■	目標を達成できなかった項目については、原因分析を的確に実施すること。
	8	内部監査の実施結果	■	2023年11月に実施した。
	9	問題点の是正処置及び予防処置の結果	■	「問題点是正・予防処置結果」様式を確認した。
	10	前回審査の指摘事項の改善	■	対応中も含めて進捗があることを確認した。

代表者による全体の評価と見直し記録	全体評価・コメント	システムの有効性、環境への取組の有効性		工場の稼働率の向上などの要因で、目標は多くの部門で未達となってしまった。 各種目標を達成するための施策こそ一番重要であることをしっかりと認識し、目標を大幅に達成すべく全員参加で知恵を絞り取り組んでいく。	
		見直し項目		変更の必要性	変更「有」の場合の指示事項
	代表者による見直し	1	環境経営方針	☐ 有 ☒ 無	
		2	環境経営目標	☐ 有 ☒ 無	
		3	環境経営計画	☐ 有 ☒ 無	
		4	実施体制	☐ 有 ☒ 無	

2024.9.30

代表者のサイン

代表取締役 竹中 彰一